

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第284集

西近津遺跡群

# 西近津遺跡XIV

長野県佐久市長土呂 西近津遺跡XIV発掘調査報告書

2021.9

佐久市教育委員会

## 例言

- 1 本書はアクアリゾート株式会社による宅地造成工事に伴う西近津遺跡群西近津遺跡XIVの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 アクアリゾート株式会社
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 西近津遺跡群 西近津遺跡XIV (NT XIV)  
長野県佐久市長土呂字森下1769-2他
- 5 調査期間及び面積 発掘調査期間：令和2年6月17日～令和2年11月2日  
整理事業期間：令和2年11月3日～令和4年9月  
面積：206㎡
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。

## 凡例

- 1 遺構の略称は次のとおりである。 H－堅穴住居址 D－土坑 M－溝址 P－ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 遺構の計測値は以下の値である。



- 4 スクリーントーン表示は以下のとおりである。



- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺1/4で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 遺構計測表及び遺物観察表における( )は推定値を、< >は残存値を示す。
- 8 第1図は、地理院タイルの色別標高図及び陰影起伏図、国土数値情報(行政区画データ)を基に作成した。

## 目次

例言	第II章 遺跡の位置と環境	2
凡例	第1節 遺跡の環境	2
目次	第2節 調査方法と基本層序	3
	第III章 遺構と遺物	5
第I章 発掘調査の経緯	第1節 堅穴住居址	5
第1節 調査にいたる経緯	第2節 土坑	16
第2節 調査組織	第3節 溝址	17
第3節 調査日誌	第4節 ピット	18
第4節 遺構・遺物の概要	写真図版	

# 第1章 発掘調査の経緯

## 第1節 調査にいたる経緯

西近津遺跡群は、佐久市北部の長土呂地籍に所在する縄文時代から平安時代までの複合遺跡である。(第1図)。今回、遺跡内でアクアリゾート株式会社による宅地造成工事が計画されたことにより、対象地1,621㎡について遺構の確認調査を実施した。その結果、対象地全域に弥生時代後期から平安時代までの遺構が分布することが確認された。

保護協議の結果、宅地内の道路建設部分と浸透施設建設部分について、遺構の記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

## 第2節 調査組織

### 調査主体者

佐久市教育委員会 事務局	教育長 橋澤 晴樹(～令和3年5月) 吉岡 道明(令和3年5月～)
社会教育部長	三浦 一浩(令和2年度) 土屋 孝(令和3年度)
文化振興課長	東城 洋(令和2年度) 平林 照義(令和3年度)
文化振興課企画幹	岡部 政也(令和2年度) 谷津 和彦(令和3年度)
文化財調査係長	山本 秀典
文化財調査係 調査担当者	富沢 一明 上原 学 羽毛田 卓也 小林 眞寿 久保 浩一郎 久保 浩一郎
調査員	田羽根 篤 赤羽根 充江 大矢 志慕 桐原 久人 小島 真 清水 律子 田中 ひさ子 羽毛田 利明 比田井 久美子 舟田 和夫 堀籠 まゆみ 堀籠 保子 森泉 文恵 森泉 美由起 柳澤 孝子 横尾 敏雄

## 第3節 調査日誌

令和元年度	
令和元年8月2日	アクアリゾート株式会社より土木工事等に係る届出を受理。
令和2年度	
6月4日・5日	対象地1,621㎡の遺構確認調査を実施し、全域で堅穴住居址等を確認する。保護協議の結果、対象地中央の道路建設範囲と、浸透施設建設範囲について、記録保存のための本調査を実施することとなる。
6月17日～11月2日	道路及び浸透施設部分206㎡の本調査を実施する。
11月4日～3月26日	出土遺物の整理作業及び発掘調査報告書作成作業を行う。
令和3年度	
4月30日～9月	出土遺物の整理作業及び発掘調査報告書執筆を行い、報告書を刊行する。

## 第4節 遺構・遺物の概要

遺構	堅穴住居址11軒(弥生時代後期～奈良・平安時代)、土坑3基、溝址5条、ピット60基
遺物	縄文土器、弥生土器、土師器(古墳時代～平安時代)、須恵器(古墳時代～平安時代)、灰釉陶器、土製品、石器、石製品、鉄製品

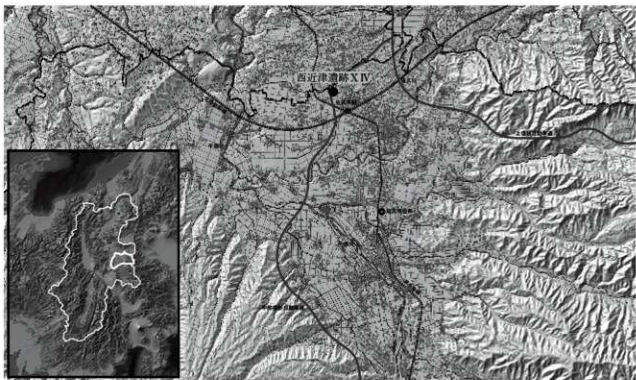
## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の環境

佐久市は長野県の中央東端、四方を山地に囲まれた標高約700mの盆地内に位置し、北方には現在も噴煙を上げる浅間山を望むことができる。本遺跡が位置する佐久市北側は、浅間火山岩類を基盤とし、その上に浅間軽石流が厚く堆積している。この堆積物が河川の浸食を受けて箱型の台地が形成された、いわゆる「田切り」地形が特徴的に発達しており、本遺跡もこの「田切り」の台地上に立地している。

本遺跡周辺では、北陸新幹線佐久駅の開業を契機とした開発事業が続き、近年の佐久市内で最も開発が盛んな地域となっている。北東から南西に延びる幾筋もの田切り台地上には多くの遺跡が展開しており、本遺跡を含む西近津遺跡群や、南側の周防畑遺跡群は佐久市内有数の遺跡密集地であるため、開発に伴う発掘調査が多く行われてきた（第2図）。

西近津遺跡では、縄文時代後期の遺物が多く出土しており、西近津遺跡Ⅷ（3）では、縄文時代後期の埋壙や土偶、石棒などの遺物が出土していることから、周囲に当該機の集落が存在していると考えられる。縄文時代晩期から弥生時代中期までの生活痕跡は希薄となるが、弥生時代後期になると大規模な集落が形成される。区画整理事業に伴う宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ等（7）の調査では堅穴住居址をはじめ周溝墓などの墓域も確認されており、中部横断道建設に伴う西近津遺跡群（9）の調査では長辺が18mにも及ぶ巨大な堅穴住居址が確認されている。続く古墳時代には集落が縮小するようだが、古墳時代後期には再び集落が拡大し、奈良・平安時代へと続いていく。奈良・平安時代には銅印や瓦といった特殊な遺物が出土しており、周辺に寺院の存在も想定される。中世になると集落景観は不明瞭になるが、各遺跡で溝址や堅穴状遺構などが検出されている。本遺跡東方には長土呂館跡等も存在するため、何らかの開発は行われていたと考えられる。



第1図 西近津遺跡XIV位置図



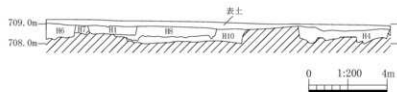
第2図 本遺跡周辺の遺跡分布図

## 第2節 調査方法と基本層序

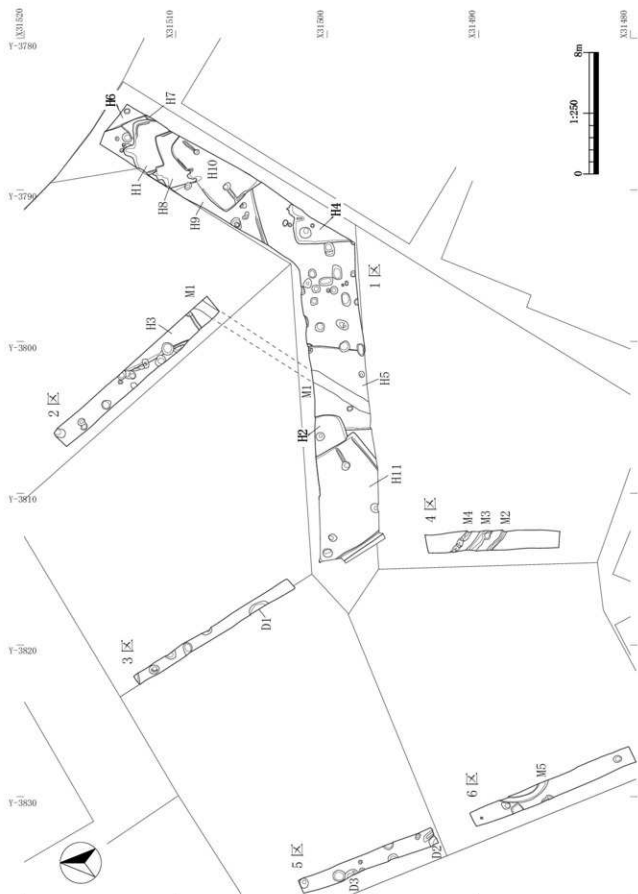
遺構確認面までの表土は重機で掘削し、対象地内に仮置きした。調査区が分割されているため、便宜上道路建設部分を1区、浸透施設部分を2～6区とする（第4図）。各区周囲に測量用の基準杭を打設し、トータルステーションを用いて平面図等の記録を作成した。現場での記録写真はデジタル一眼レフカメラ（LAW・JPEG）と35mm一眼レフカメラ（カラーリバーサル）を用いて撮影した。出土遺物は、遺構及び区ごとに取上げた。

現場での作業終了後は、佐久市文化財事務所で記録及び出土遺物の整理作業を行った。遺物写真撮影はデジタル一眼レフカメラを用い、本書の作成については、Adobe社のIllustrator、Photoshop、Indesignを用いて編集、執筆した。

調査区内の土層堆積は、調査前の畑耕作面の標高が北側で約709.2m、南側で約708.2mを測る。遺構確認面は地山上面であり、遺構確認面の標高は北側で約709.0m、南側で約707.7mである。北側は地山ローム層まで削平されており、耕作が地山に及ぶ状況であった。



第3図 調査区東壁土層断面図



第4図 西近津遺跡XIV調査区全体図

## 第三章 遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居址

#### H1号住居址（第5・6図）

1区北側で検出され、H7・H8号住居址より新しい。南東及び北西角が調査区外に延びるが、南北3.10m、東西3.09m、床面積9.58㎡を測る方形の住居址である。検出面から床面までの深さは0.36m、主軸はW-6° - Nである。床面は硬質で、ビットは確認できなかった。カマドは北側中央に位置し、構築材と考えられる礫が検出された。貼床の厚さは2～8cm程度である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器などが出土した。1～11は土師器の坏である。1・5・6・11は内面黒色処理が施され、1～5・8・10には内面に暗文が施される。12～15は須恵器の坏である。土師器、須恵器ともに底部は回転糸切りが主体だがヘラ切りのもも認められる。16は須恵器の壺、17は須恵器の碗の高台と考えられる。18・19は須恵器の蓋である。20～23は灰釉陶器である。24～29は土師器の甕で、いずれもロクロ成形である。30・31は須恵器の甕である。32～34は磨石、35は砥石である。これらの出土遺物から本址は9世紀後半の所産と考えられる。

#### H2号住居址（第7図）

1区西側で検出され、H5・H11号住居址より新しい。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北2.33m以上、東西5.28m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.45m、主軸はW-14° - Nである。住居床面は硬質で、ビット2基が検出された。いずれも柱穴と考えられる。貼床は10～40cm程度の厚さが確認できる。

遺物は遺構埋土、床面、掘方から土師器、須恵器、灰釉陶器等が出土した。1・2は土師器の坏である。3は掘方から出土した土師器の有台坏で、須恵器の模倣品である。底部には墨書が認められるが、全体的に煤が付着しており、灯明皿として転用されたものと考えられる。4は土師器の高坏である。5～9は須恵器の坏で、8の底部にはヘラ記号が認められる。10は須恵器の有台坏、11は蓋である。12は灰釉陶器の碗である。13～15は土師器の甕である。13はロクロ成形、14は被熱により調整が不明だが、床面から出土した。16～19は須恵器の壺、20は須恵器の甕である。22・23は鉄滓と考えられる。

出土遺物に時期差がみられるが、灰釉陶器の存在と13・14の甕の形態から、本址は9世紀前半に位置づけたい。

#### H3号住居址（第8図）

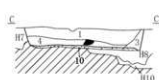
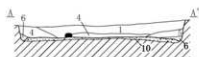
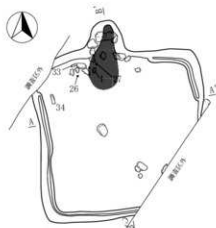
2区南側で検出され、M1号溝址及びP1～3より古い。住居址の南西部分のみの検出であるため全容は不明だが、検出面から床面までの深さは0.48m、主軸はW-24° - Nである。床面は硬質で、ビット1基と間仕切り溝、周溝の一部が検出された。貼床は5～26cmの厚さが確認できる。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土した。1は土師器の坏、2・3は須恵器の坏である。3は底部にヘラズリが施される。4は須恵器有台坏、5は須恵器の蓋である。6・7は土師器の甕、8は磨石である。これらの遺物から、本址は8世紀前半の所産と考えられる。

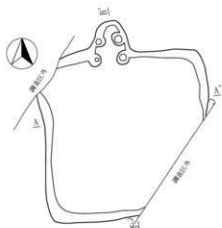
#### H4号住居址（第9図）

1区南側で検出された。南東側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北3.36m以上、東西2.26m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.50m、主軸はW-2° - Nである。床面は硬質で、ビット2

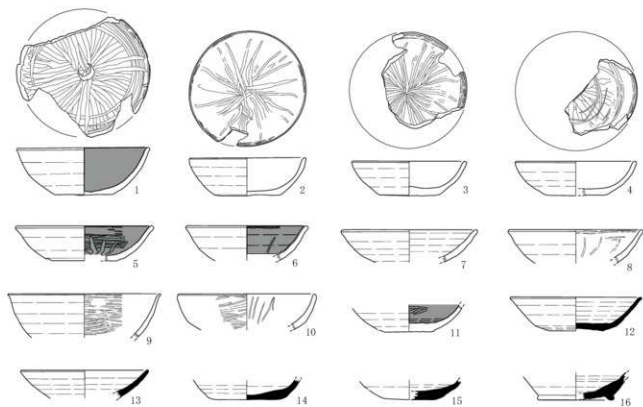
H1号住居址平面図



H1号住居址断面平面図

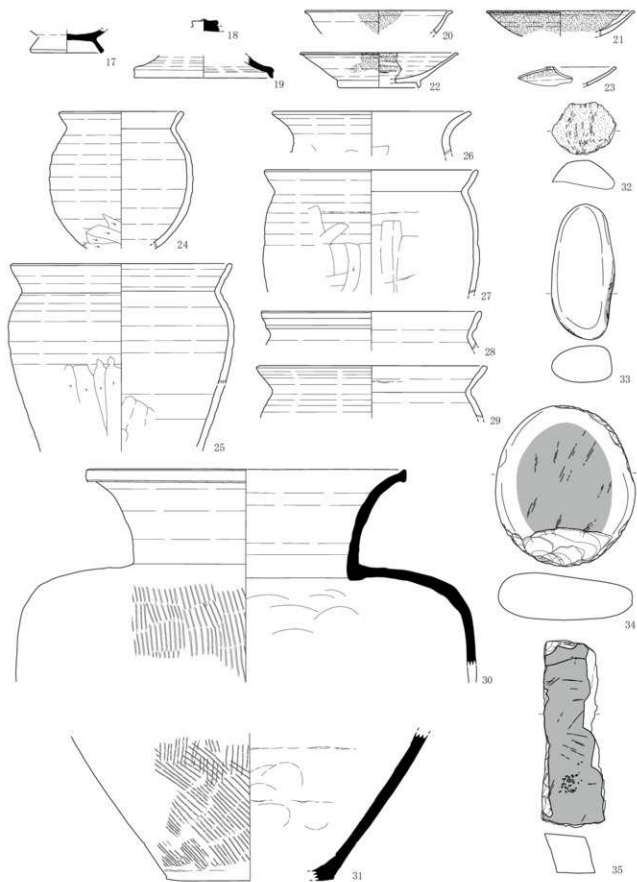


- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 1 7.5YR3/4 暗褐色土   | 軽砂量・橙色粒少量含む。            |
| 2 7.5YR3/1 黒褐色土   | 焼土ブロック少量含む、褐色土ブロック多量含む。 |
| 3 7.5YR3/3 暗褐色土   | 軽石・橙色粒少量含む。             |
| 4 7.5YR2/2 黒褐色土   | 黄褐色土ブロック少量含む。           |
| 5 7.5YR4/3 褐色土    | 黄褐色土ブロック少量含む。           |
| 6 10YR4/2 灰黄褐色土   | 黄褐色土ブロック多量含む。           |
| 7 7.5YR3/1 黒褐色土   | 焼土ブロック少量含む。             |
| 8 7.5YR3/1 黒褐色土   | 焼土・炭化物多量含む。             |
| 9 7.5YR4/1 褐色土    | 表面焼ける。                  |
| 10 7.5YR4/2 灰黄褐色土 | ロームブロック多量含む。            |



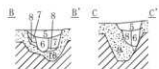
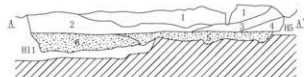
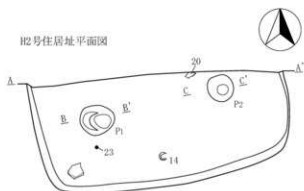
第5図 H1号住居址遺構図・遺物図1



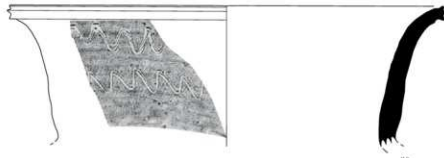
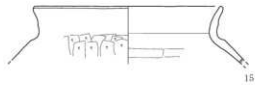
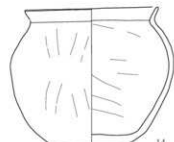
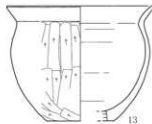
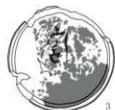


第6图 H1号住居址遗物图2

H2号住居址平面図

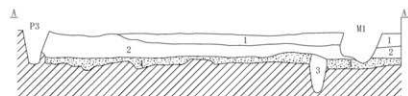


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色土 灰黄褐色土ブロック含む。
- 3 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土ブロック含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色土 灰黄褐色土ブロック多量含む。
- 5 10YR4/2 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱。
- 7 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色・黄褐色土ブロック少量含む。
- 8 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック多量含む。
- 9 10YR4/1 褐灰色土 軋球、黒色土・ロームブロック多量含む。
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黒色土ブロック少量含む。

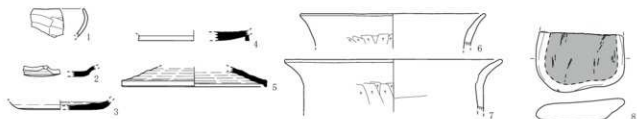
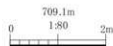


第7図 H2号住居址遺構図・遺物図

H3号住居址平面図



- 1 10YR3/3 暗褐色土  
黒色土・黄褐色土ブロック多量含む。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土  
黄褐色土ブロック少量含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土  
しまり器。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色土  
黒色土ブロック少量・ロームブロック  
多量含む。



第8図 H3号住居址遺構・遺物図

基が検出された。P<sub>1</sub>が柱穴と考えられる。カマドは北側中央に位置し、褐灰色粘質土で構築される。貼床は0～35cmの厚さが確認でき、外周部が深く掘られている。遺物は遺構埋土及び掘方から土師器、須恵器が出土した。1～3は土師器の坏、4は土師器の皿である。3・4は内面が摩滅しているが、黒色処理が施されていたと考えられる。5～14は須恵器の坏である。15は須恵器の蓋、16は須恵器模倣の土師器蓋である。17は土師器の甕、18は土器片円板である。

出土遺物から本址は9世紀前半の所産と考えられる。

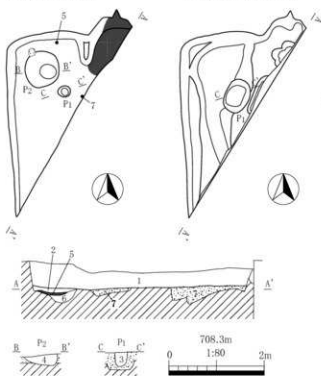
### H5号住居址（第10・11図）

1区西側で検出され、H2号住居址及びM1号溝址より古い。南北両側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北3.54m以上、東西5.12m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.71m、主軸はN-4°-Eである。住居床面は硬質で、ビット3基が検出された。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は柱穴と考えられる。炉跡は検出されなかったが、中央床面で焼土が検出された。貼床は認められず、地山ローム層上面を床面とする。

遺物は遺構埋土及び床面から弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器等が出土した。1～17は弥生土器である。1～3は鉢、4は高坏、5～9は壺、10～15は甕、16は単孔の甌、17は蓋である。甕は櫛波状文と斜走文が認められる。18は須恵器の坏、19は灰釉陶器の碗、20は土師器の甕、21は縄文土器の浅鉢である。22～24は土器片円板、25は二次加工が施された黒曜石の剥片、26は磨石、27・28は敲石である。29・30は鉄製品である。29は角柱状の鉄製品だが、両側が欠損している。30は板状製品で、中央の円形突起部分は錆膨れであろうか、器種は不明である。18～21は埋土上部からの出土で、混入品と考えられ、本址は弥生時代後期の箱清水期の所産と考えられる。

H4号住居址平面図

H4号住居址掘方平面図

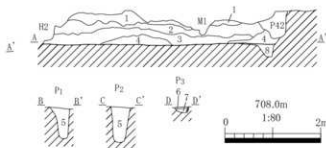
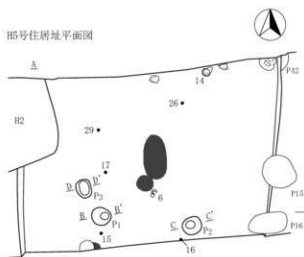


- 1 10YR3/3 黒色・黄褐色土ブロック含む。
- 2 7.5YR5/1 概灰色粘質土・炭化物含む。カマド崩落土。
- 3 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱。
- 4 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱。
- 5 7.5YR7/6 褐色土 焼土層。
- 6 10YR4/2 黒色土ブロック含む。カマド壁方。
- 7 10YR4/2 ロームブロック・黒色土ブロック多量含む。



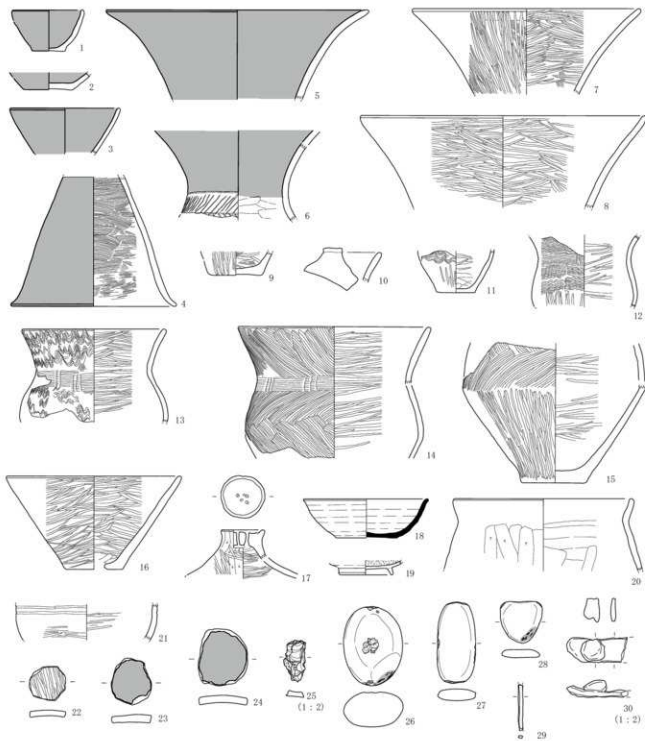
第9図 H4号住居址遺構・遺物図

H5号住居址平面図



- 1 10YR3/1 黄褐色土ブロック少量含む。
- 2 10YR5/2 黒褐色土、褐色土ブロック含む。
- 3 10YR3/1 黄褐色土ブロック含む。
- 4 10YR5/2 黒褐色土、褐色土ブロック含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱。
- 6 10YR4/2 しまりやや弱。黄褐色土ブロック含む。
- 7 10YR3/1 黄褐色土ブロック少量含む。
- 8 10YR3/1 しまり強。

第10図 H5号住居址遺構図

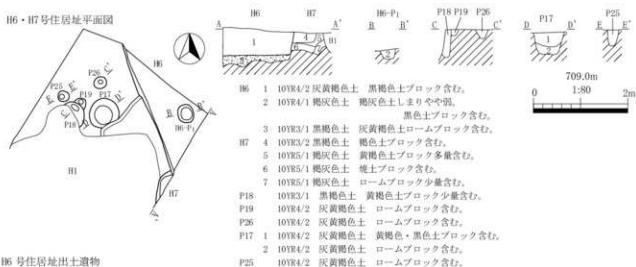


第11図 H5号住居址遺物図

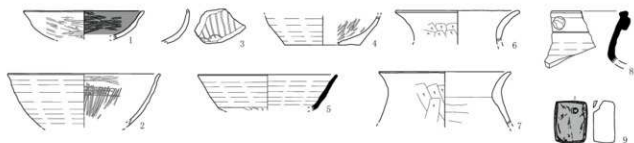
H6号住居址 (第12図)

1区北端で検出され、H7号住居址より新しい。一部のみの検出であるため全容は不明だが、検出面から床面までの深さは0.58m、主軸はW-20° - Nである。住居床面は硬質で、柱穴と考えられるピット1基が検出された。貼床は11~25cmの厚さで確認された。遺物は遺構埋土及び掘方から土師器、

H6・H7号住居址平面図

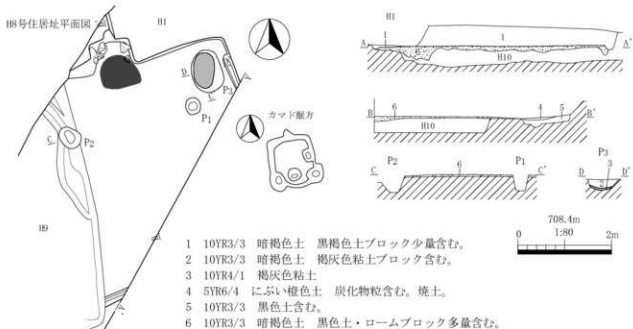


H6号住居址出土遺物

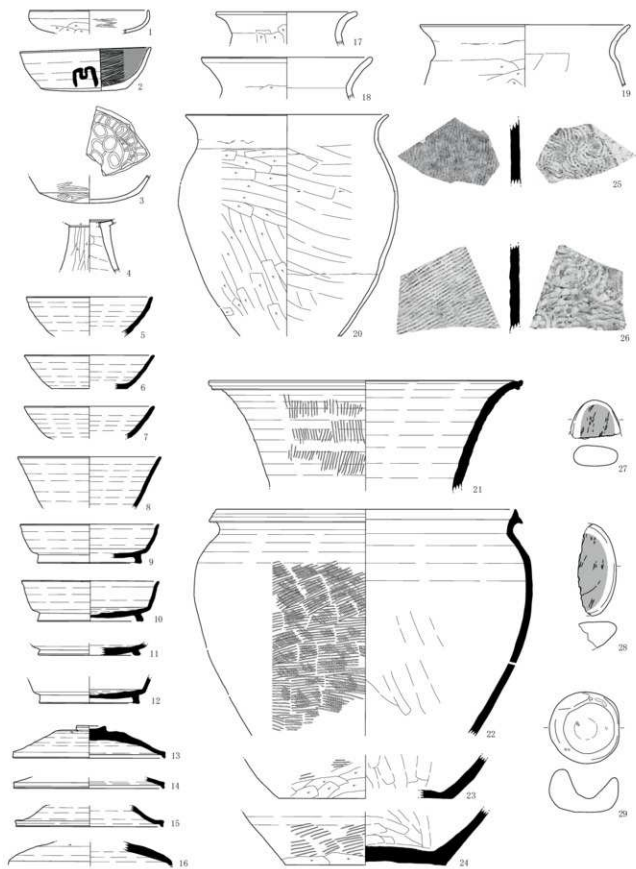


第12図 H6号住居址遺構図・遺物図、H7号住居址遺構図

H8号住居址平面図



第13図 H8号住居址遺構図



第14图 H8号住居址遗物图

須恵器等が出土した。1～4は土師器の坏で、1は内面黒色処理が施され、3は暗文が認められる。5は須恵器の坏である。6・7は土師器の甕、8は須恵器の甕だろうか、口縁部には装飾とみられる円形の突起が貼付けられ、横位の沈線が施される。9は砥石で、直方体の6面全面を使用しており、正面右上から左上に向かって斜めに穿孔される。出土遺物から本址は8世紀代の所産と考えたい。

#### H7号住居址（第12図）

1区北側で検出され、H1・H6号住居址より古い。端部のみの検出だが、焼土を含む埋土の特徴から住居址の一部と考えた。時期を特定できる遺物が出土していないため、帰属時期は不明である。

#### H8号住居址（第13・14図）

1区北側で検出され、H1・H9号住居址より古く、H10号住居址より新しい。西側をH9号住居址に壊され、南東側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北4.67m、東西3.49m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.44m、主軸はW-12° - Nである。住居床面は硬質で、ビット3基が検出され、南側と東側では周溝が検出された。P1・P2は柱穴と考えられる。P3は底部から粘土が検出された。カマドは北側中央で検出され、方形の掘方で、角礫を用いて構築されている。貼床は3～30cmの厚さで確認できる。

遺物は遺構埋土から土師器、須恵器、石器が出土した。1～3は土師器の坏で、2は内面黒色処理が施され、外面に墨書が認められる。4は土師器の高坏である。5～8は須恵器の坏、9～12は須恵器の有台坏、13～16は須恵器の蓋である。17～20は土師器の甕で、体部に最大径をもつ。21～26は須恵器の甕である。27・28は磨石、29は凹石である。

出土遺物の特徴から、本址は8世紀後半の所産と考えられる。

#### H9号住居址（第15図）

1区北側で検出され、H8・H10号住居址より新しい。北西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北4.71m以上、東西4.43m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.52m、主軸はW-10° - Nである。住居床面は硬質で、ビット4基が検出され、南側では周溝が検出された。P1・P2は柱穴、P3・P4は入口施設に伴うビットと考えられる。貼床は4～28cmの厚さで確認できる。

遺物は遺構埋土から土師器、須恵器、石器、鉄製品が出土した。1～3は土師器の坏で、1は内面黒色処理と暗文が施され、外面に「七」の墨書が認められる。4・5は須恵器の坏、6は須恵器の有台坏、7は土師器の甕、8は須恵器の甕である。9・10は磨石、11は両端を欠損する方柱状の鉄製品である。

出土遺物の特徴から、本址は8世紀後半から9世紀前半の所産と考えられる。

#### H10号住居址（第16図）

1区北側で検出され、H1・H8・H9号住居址より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北2.92m以上、東西5.63mを測る。検出面から床面までの深さは0.54m、主軸はW-38° - Nである。住居床面は硬質で、ビット2基が検出され、北側と西側の一部では周溝が検出された。P1・P2は柱穴と考えられ、間仕切り溝が確認できる。カマドは北側中央に位置し、粘土により構築される。貼床は6～27cmの厚さで確認できる。

遺物は遺構埋土から土師器が出土した。1は土師器の坏で、内面黒色処理と暗文が施される。2・3は土師器の壺である。遺物の特徴から、本址は7世紀の所産と考えられる。





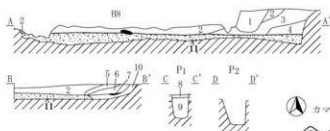
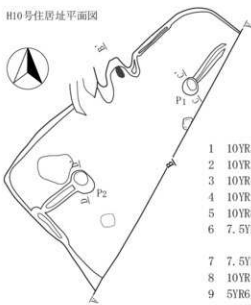
第15図 H9号住居址遺構図・遺物図

### H11号住居址 (第17図)

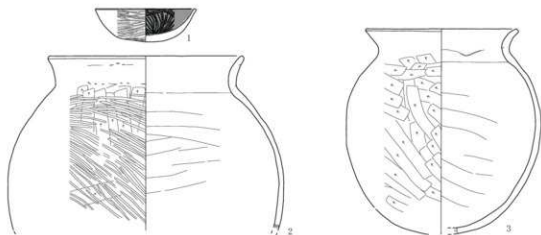
1区西端で検出され、H2号住居址より古い。南北両側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北4.77m以上、東西6.25mを測る。検出面から床面までの深さは0.75m、主軸はW-35° - Nである。住居床面は硬質で、ビット3基が検出され、南側と西側では周溝が検出された。P1～P3は柱穴と考えられ、P3には間仕切り溝が確認できる。貼床は3～22cmの厚さで確認でき、掘方は中央部が一段深くなるため、住居の拡張が行われた可能性がある。

遺物は遺構埋土及び床面から土師器、須恵器、石器が出土した。1～6は土師器の坏である。数種の形態が認められるが内外綿ヘラミガキが施され、内面黒色処理が施されるものもある。体部に稜をもつ1～3は底部にヘラケズリが施される。4は住居床面から出土した。7は土師器の鉢である。8は須恵器の蓋、9は須恵器の坏、10は須恵器の甕である。11は珪質頁岩製の有舌尖頭器である。住居址

H10号住居址平面図



- 1 10YR3/1 黒褐色土 褐色土ブロック含む。
- 2 10YR2/1 黒色土 黄褐色土ブロック多量含む。
- 3 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック多量含む。
- 4 10YR2/1 黒色土 灰褐色土含む。
- 5 10YR8/3 浅黄橙色粘土 焼けて縮る。カマド崩落土。
- 6 7.5YR4/1 褐灰色粘質土  
粘土ブロック、焼土、炭化物多量含む。
- 7 7.5YR7/6 橙色土 焼土。
- 8 10YR4/1 褐灰色土 黒色土ブロック含む。
- 9 5YR6/2 灰褐色土 黄褐色土ブロック含む。
- 10 10YR4/1 褐灰色土 カマド掘方。
- 11 10YR4/1 褐灰色土 貼床。ローム・黒色土ブロック多量含む。



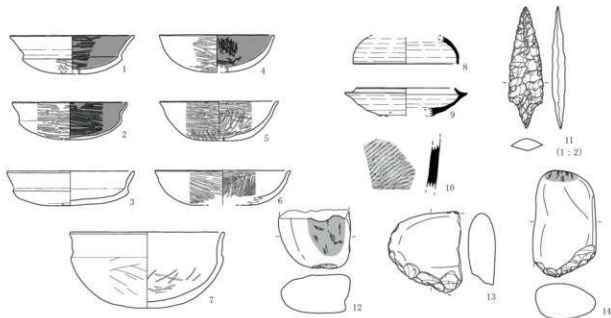
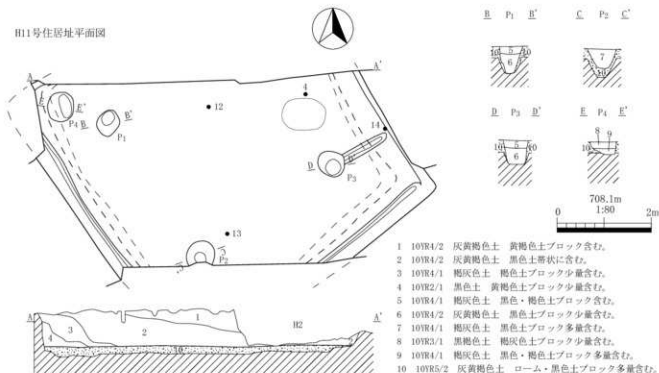
第 16 図 H10 号住居址遺構図・遺物図

埋土から出土したが、縄文時代草創期の所産と考えられる。12～14は磨石ないし敲石である。  
出土遺物から、本址は7世紀の所産と考えられる。

## 第 2 節 土坑

本調査区では、3基の土坑が検出された。詳細は遺構計測表（第1表）に示す。D1号土坑は3区（第21図）、D2・D3号土坑は5区（第23図）で検出された。いずれも半分以上が調査区外に延びるため内容は不明だが、ピットより大型のものを土坑とした。D1号土坑は出土した須恵器の坏から、8世紀以降の所産と考えられる。D2・D3号土坑は遺物が出土していないため帰属時期は不明である。

H11号住居址平面図

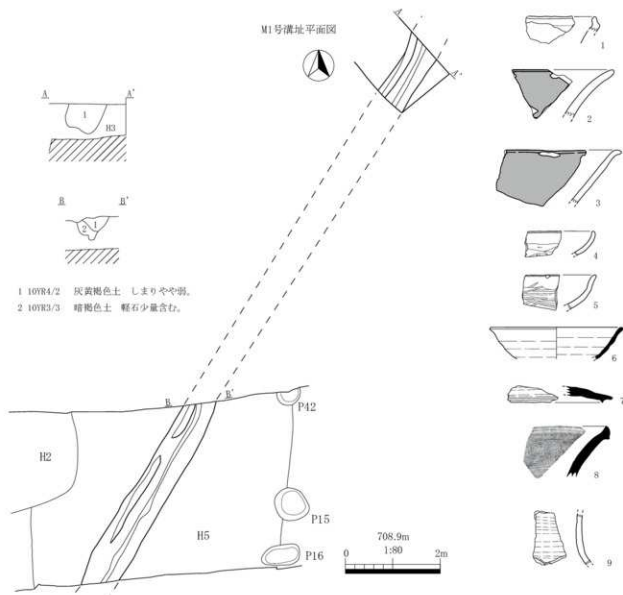


第 17 図 H11 号住居址遺構図・遺物図

### 第 3 節 溝址

溝址は 5 条検出された。詳細は遺構計測表（第 1 表）に示す。

M1 号溝址は 1 区西端から 2 区東側にかけて検出された溝址で、配置や埋土の特徴から同一遺構と考えられる。H3・H5 号住居址より新しい。全容は不明だが、北東から南西に延びる直線的な溝で、出土遺物には各時代のものがみられる。1 は縄文土器で、後期の堀之内式期の深鉢と考えられる。2・3 は



第18図 M1号溝址遺構図・遺物図

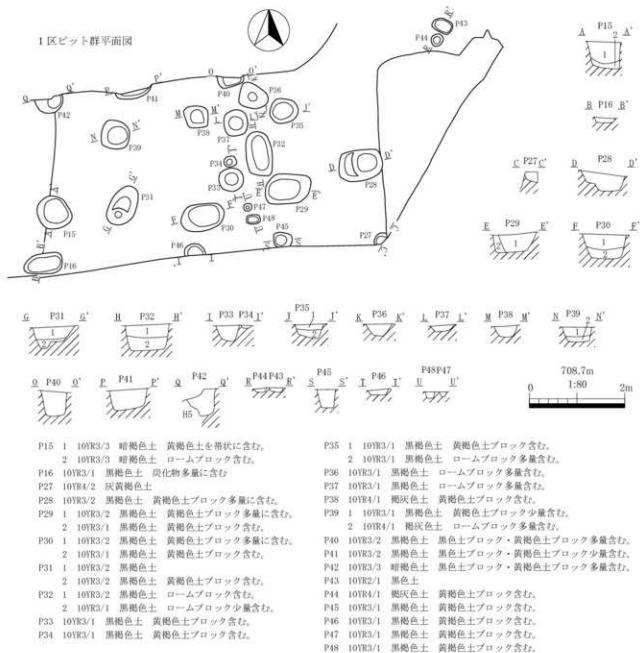
弥生土器で、箱清水期のものと考えられる。4・5は土師器で、いずれも坏である。6～8は須恵器で、坏、蓋、壺である。9は灰釉陶器の壺である。本址の帰属時期は、出土遺物から9世紀以降と考えられる。

M2～4号溝址は4区で検出され、北西から南東に3本が並行する。出土遺物は弥生土器の小破片などで、図化し得るものはない。遺構の帰属時期は不明である。

M5号溝址は6区で検出された。東側が調査区外に延びるため全容は不明だが、検出範囲は弧状を呈する。遺物が出土していないため時期は不明である。

#### 第4節 ビット

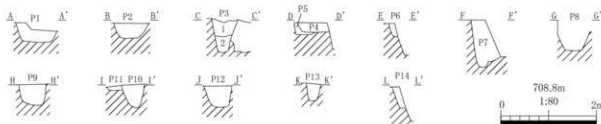
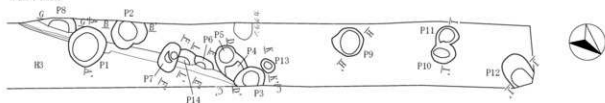
ビットは調査区全域で60基検出された。詳細は第1・2表に示す。1区中央ではビットがまとまって検出された。掘立柱建物等を構成する柱穴の可能性もあるが、調査区内では建物址と捉えられる配



第19図 1区ピット群遺構図・遺物図

置は確認できなかった。ピット出土の遺物はわずかであるため、個々の帰属時期を特定するのは難しい。住居と同時期の遺物が出土しているため、弥生時代後期から平安時代の間に位置づけられる。

2区平面図

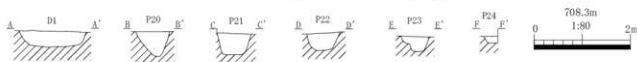
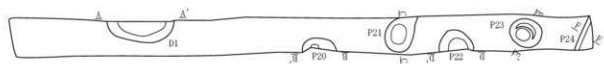


P1 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。  
 P2 10YR3/3 暗褐色土  
 P3 1 10YR3/3 暗褐色土  
 2 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。  
 P4 10YR4/2 灰黄褐色土  
 P5 10YR2/1 黒色土  
 P6 10YR4/2 灰黄褐色土  
 P7 10YR4/2 灰黄褐色土

P8 10YR4/2 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。  
 P9 10YR2/1 黒色土 黄褐色土ブロック含む。  
 P10 10YR3/1 黒褐色土  
 P11 10YR4/1 褐灰色土 黄褐色土ブロック含む。  
 P12 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。  
 P13 10YR4/2 灰黄褐色土  
 P14 10YR4/2 灰黄褐色土

第20図 2区遺構図

3区平面図



D1 10YR3/1 黒褐色土 褐灰色土・黄褐色土ブロック含む。  
 P20 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。  
 P21 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。

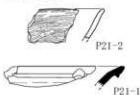
P22 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。  
 P23 10YR3/1 黒褐色土 灰黄褐色土・黄褐色土ブロック含む。  
 P24 10YR3/1 黒褐色土 灰黄褐色土・黄褐色土ブロック含む。

D1 号土坑出土遺物



D1-1

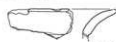
P21 出土遺物



P21-1

P21-2

P23 出土遺物



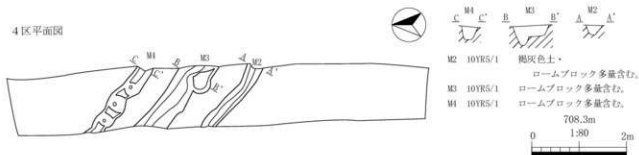
P23-1



P23-2

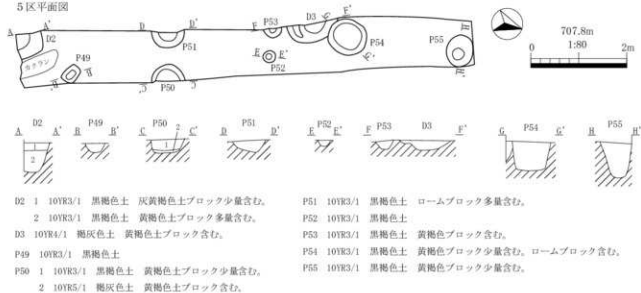
第21図 3区遺構図・遺物図

4区平面図



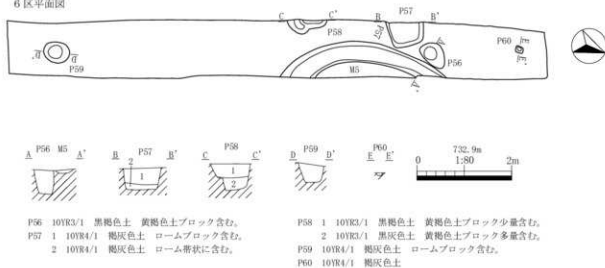
第22図 4区遺構図

5区平面図



第23図 5区遺構図

6区平面図



第24図 6区遺構図

遺構	位置	形状	法量 (m)			重複関係	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
D1	3区	不明	1.37	(0.43)	0.32		西側調査区外
D2	5区	不明	(0.55)	(0.48)	0.62		南西側調査区外
D3	5区	不明	1.07	(0.37)	0.20	P54より古	西側調査区外
P1	2区	円形	0.84	0.78	0.38	H3・P8より新	
P2	2区	円形	0.73	(0.58)	0.31	H3より新	
P3	2区	円形	0.64	(0.40)	0.72	H3より新	
P4	2区	円形	(0.56)	0.53	0.19	H3・P5より新 P3より古	
P5	2区	円形	0.47	0.45	0.25	P4より古	
P6	2区	不明	0.43	(0.19)	0.28	H3より古 P14より新	
P7	2区	楕円形	0.62	0.38	0.99	H3・P14より新	
P8	2区	不明	(0.82)	(0.24)	0.63	H3・P1より古	
P9	2区	円形	0.66	0.58	0.44		
P10	2区	円形	0.51	0.43	0.49	P11より新	
P11	2区	円形	0.48	(0.34)	0.08	P10より古	
P12	2区	楕円形	(0.72)	0.54	0.45		
P13	2区	円形	0.31	0.24	0.35		
P14	2区	不明	(0.35)	(0.27)	0.44	H3・P6より古	
P15	1区	円形	0.75	0.68	0.56	H5より新	
P16	1区	楕円形	0.82	0.43	0.11	H5より新	
P17	1区	円形	0.63	0.61	0.46		
P18	1区	円形	0.53	0.21	0.59	P19より新 H1より古	
P19	1区	円形	0.24	0.14	0.14	P18より古	
P20	3区	不明	0.65	(0.21)	0.51		東側調査区外
P21	3区	不整形	0.75	0.58	0.44		西側調査区外
P22	3区	円形	0.71	0.42	0.36		東側調査区外
P23	3区	円形	0.67	0.58	0.31		
P24	3区	不明	(0.68)	(0.33)	0.14		北側調査区外
P25	1区	円形	0.23	0.23	0.33		
P26	1区	円形	0.28	0.25	0.19		
P27	1区	不明	(0.29)	(0.19)	0.21	H4より古	
P28	1区	隅丸長方形	0.92	0.64	0.43	H4より新	
P29	1区	隅丸長方形	0.95	0.62	0.37		
P30	1区	楕円形	0.93	0.56	0.51		
P31	1区	楕円形	0.86	0.56	0.45		
P32	1区	楕円形	0.93	0.55	0.54		
P33	1区	円形	0.52	0.47	0.33		
P34	1区	円形	0.27	0.21	0.66		
P35	1区	円形	0.60	0.52	0.30		
P36	1区	楕円形	0.60	0.48	0.25		
P37	1区	隅丸方形	0.52	0.48	0.12		
P38	1区	隅丸方形	0.46	0.44	0.23		
P39	1区	隅丸方形	0.59	0.58	0.30		
P40	1区	不明	0.54	(0.22)	0.53		東側調査区外
P41	1区	不明	0.78	(0.15)	0.40		東側調査区外
P42	1区	不明	0.56	(0.30)	0.56	H5より新	東側調査区外
P43	1区	楕円形	0.41	0.28	0.69		
P44	1区	円形	0.27	0.24	0.09		
P45	1区	円形	0.39	(0.29)	0.37		西側調査区外
P46	1区	不明	0.44	(0.25)	0.12		西側調査区外
P47	1区	円形	0.17	0.16	0.10		
P48	1区	楕円形	0.28	0.20	0.13		
P49	5区	隅丸長方形	0.38	0.29	0.19		
P50	5区	不明	0.69	(0.36)	0.28		東側調査区外
P51	5区	不明	0.68	(0.31)	0.26		西側調査区外

第1表 遺構計測表1



遺構	位置	形状	法量 (m)			重複関係	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P52	5区	円形	0.26	0.24	0.13		
P53	5区	不明	0.37	0.19	0.18		西側調査区外
P54	5区	円形	0.82	0.72	0.61	D3より新	
P55	5区	槽円形	0.61	0.43	0.72		
P56	6区	槽円形	0.55	0.44	0.49		
P57	6区	隅丸方形	0.74	(0.49)	0.45		西側調査区外
P58	6区	不整形	0.82	(0.30)	0.55		西側調査区外
P59	6区	槽円形	0.55	0.44	0.38		
P60	6区	方形	0.16	0.13	0.06		

第2表 遺構計測表2

遺構番号	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置 備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
H1	土師器	坏	14.1	6.1	5.0	ヘラミガキ、暗文、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	No.3、カマド
H1	土師器	坏	12.4	6.9	4.0	ヘラミガキ、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切	Ⅱ区
H1	土師器	坏	(12.2)	(6.2)	3.7	ヘラミガキ、暗文	ロクロナデ、底部ヘラ切	カマド
H1	土師器	坏	(12.8)	(6.2)	3.7	ヘラミガキ、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切	Ⅱ区
H1	土師器	坏	(14.6)	(8.4)	3.7	ヘラミガキ、暗文、黒色処理	ロクロナデ	Ⅲ区
H1	土師器	坏	(13.0)	—	(3.7)	ロクロナデ、ヘラミガキ 黒色処理	ロクロナデ	Ⅰ区
H1	土師器	坏	(14.6)	—	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
H1	土師器	坏	(14.4)	—	(3.6)	ヘラミガキ、暗文	ロクロナデ	Ⅲ区
H1	土師器	坏	(16.2)	—	(4.7)	ヘラミガキ	ロクロナデ	Ⅱ区
H1	土師器	坏	(14.6)	—	(3.8)	ヘラミガキ、暗文	ヘラミガキ	輸出
H1	土師器	坏	—	5.2	(2.9)	ロクロナデ、ヘラミガキ 黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	Ⅱ・Ⅳ区
H1	須恵器	坏	(14.0)	(6.4)	3.6	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、火押痕 底部回転糸切	Ⅲ方
H1	須恵器	坏	(13.6)	—	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
H1	須恵器	坏	—	(8.0)	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切	輸出
H1	須恵器	坏	—	5.0	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切	Ⅲ区
H1	須恵器	釜	—	(8.0)	(2.9)	ロクロナデ、自然輪付着	ロクロナデ	輸出
H1	須恵器	釜?	—	7.3	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区
H1	須恵器	蓋	—	—	(1.3)	ロクロナデ		輸出
H1	須恵器	蓋	(14.5)	—	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	輸出
H1	灰軸陶器	碗	(15.6)	—	(2.5)	ロクロナデ、旋軸	ロクロナデ、旋軸	Ⅱ区
H1	灰軸陶器	皿	(16.6)	(8.4)	3.7	ロクロナデ、旋軸	ロクロナデ、旋軸	Ⅲ区
H1	灰軸陶器	皿	(15.6)	—	(2.7)	ロクロナデ、旋軸	ロクロナデ、旋軸	Ⅱ区
H1	灰軸陶器	皿	—	—	(2.0)	ロクロナデ、旋軸	ロクロナデ、旋軸	Ⅲ区
H1	土師器	甕	(13.2)	—	(14.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	Ⅱ区・カマド
H1	土師器	甕	(23.4)	—	(19.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	Ⅱ区・カマド
H1	土師器	甕	(21.0)	—	(4.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	No.16、Ⅱ区
H1	土師器	甕	(22.6)	—	(13.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	No.14,16
H1	土師器	甕	(23.2)	—	(4.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
H1	土師器	甕	(24.4)	—	(5.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区
H1	須恵器	甕	(33.2)	—	(22.4)	ロクロナデ、当具痕	ロクロナデ、タタキ	Ⅰ区
H1	須恵器	甕	—	(17.6)	(15.6)	当具痕	タタキ	Ⅱ区
H1	石器	磨石	(5.5)	(6.8)	(3.0)	重量96.5g 破片、磨面2		Ⅳ区
H1	石器	磨石	14.3	6.6	3.8	重量541.5g 磨面2、全体に煤付着		No.15
H1	石器	磨石	17.0	14.8	4.8	重量1,593.0g 磨面1、縁切に敲打痕		No.18
H1	石器	砥石	19.8	6.7	5.2	重量804.5g 砥面2、正面敲打痕		No.21
H2	土師器	坏	(10.6)	—	(1.7)	ナデ	ナデ、ケズリか	
H2	土師器	坏	—	—	(2.0)	ナデ	ナデ、ケズリか	
H2	土師器	有台坏	—	(11.0)	(1.7)	ヘラミガキ、黒色処理	ナデ、底部に壺着	Ⅲ方

第3表 遺物観察表1

遺構	番号	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置 備考
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
H2	4	土師器	高坏	—	—	(3.9)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	掘方
H2	5	須恵器	坏	(7.6)	—	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H2	6	須恵器	坏	—	—	(1.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H2	7	須恵器	坏	(10.4)	—	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H2	8	須恵器	坏	—	(9.0)	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転ヘラ切「X」ヘラ記号	
H2	9	須恵器	坏	—	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H2	10	須恵器	有台坏	—	(12.0)	(1.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H2	11	須恵器	蓋	—	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
H2	12	灰釉陶器	碗	—	—	(2.3)	ロクロナデ、旋軸	ロクロナデ、旋軸	検出
H2	13	土師器	甕	(15.2)	(7.0)	11.9	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	
H2	14	土師器	甕	(13.8)	7.9	14.1	ナデ	ケズリか、摩耗により不明	No. 2
H2	15	土師器	甕	(19.6)	—	(6.0)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	
H2	16	須恵器	蓋	(18.8)	—	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H2	17	須恵器	壺	(11.6)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、自然軸	
H2	18	須恵器	壺	—	—	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ、タタキ	
H2	19	須恵器	壺	—	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、自然軸	
H2	20	須恵器	甕	(40.6)	—	(13.2)	ロクロナデ	細描炭状文	No. 3
H2	21	土製品	土師片 円板	4.9	4.7	0.8			検出
H2	22	鉄	鉄滓	3.5	2.4	1.4	重量 11.2g		No. 2 横
H2	23	鉄	鉄滓	6.1	3.9	1.8	重量 31.0g		No. 1
H3	1	土師器	坏	—	—	(3.0)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	
H3	2	須恵器	坏	—	—	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H3	3	須恵器	坏	—	(9.0)	(1.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ	
H3	4	須恵器	有台坏	—	(11.6)	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H3	5	須恵器	蓋	(14.4)	—	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H3	6	土師器	甕	(19.4)	—	(3.7)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	
H3	7	土師器	甕	(22.8)	—	(5.6)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	
H3	8	石器	磨石	(6.4)	(9.3)	(2.1)	重量 216.6g 磨面 1、縁辺に敲打痕		
H4	1	土師器	坏	—	—	(2.4)	ナデ	ナデ	カマド
H4	2	土師器	坏	(11.8)	(12.0)	(2.7)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	P2
H4	3	土師器	坏	(17.6)	—	(5.8)	ヘラミガキ、黒色処理か	ロクロナデ	検出
H4	4	土師器	皿	11.0	(5.2)	(1.6)	ヘラミガキ、黒色処理か	ロクロナデ	カマド
H4	5	須恵器	坏	12.1	5.3	3.4	ロクロナデ、火障痕	ロクロナデ、火障痕、 底部回転糸切	No. 1
H4	6	須恵器	坏	(13.8)	6.6	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	カマド
H4	7	須恵器	坏	(13.6)	5.4	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	No. 2
H4	8	須恵器	坏	(13.7)	6.0	3.7	ロクロナデ、火障痕	ロクロナデ、火障痕、 底部回転糸切	P2
H4	9	須恵器	坏	(13.6)	(5.8)	3.8	ロクロナデ、火障痕	ロクロナデ、火障痕、 底部回転糸切	
H4	10	須恵器	坏	(15.0)	—	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H4	11	須恵器	坏	(15.2)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	掘方
H4	12	須恵器	坏	(13.6)	—	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	掘方
H4	13	須恵器	坏	(12.6)	—	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H4	14	須恵器	坏	—	(6.0)	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	
H4	15	須恵器	蓋	(11.8)	—	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	1区
H4	16	土師器	蓋	(19.2)	—	(2.0)	ヘラミガキ、黒色処理か	ロクロナデ	カマド
H4	17	土師器	甕	—	(4.0)	(9.8)	ヘラナデ	ナデ、ヘラケズリ	カマド
H4	18	土製品	土師片 円板	4.7	4.8	0.6	外面ヘラミガキ		
H5	1	弥生土器	鉢	(7.6)	3.4	4.3	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	P1
H5	2	弥生土器	鉢	—	5.1	(1.8)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	
H5	3	弥生土器	鉢	(11.6)	—	(4.8)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	
H5	4	弥生土器	高坏	—	(17.4)	(13.6)	ハケ状工具によるナデ	ヘラミガキ、赤彩	P1
H5	5	弥生土器	壺	(27.6)	—	(9.4)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	P3
H5	6	弥生土器	壺	—	—	(9.5)	ヘラナデ、ヘラミガキ、赤彩	ヘラ細斜走文	P1
H5	7	弥生土器	壺	(24.0)	—	(9.0)	ハケ状工具によるナデ、 ヘラミガキ	ハケ状工具によるナデ、 ヘラミガキ	

第4表 遺物観察表 2

遺構番号	種別	器種	法量 (cm)		成形・調整・文様等		出土位置 備考	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面
H5 8	弥生土器	壺	(30.0)	—	(9.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	P4
H5 9	弥生土器	壺	—	5.6	(2.5)	ハケ状工具によるナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	
H5 10	弥生土器	甕	—	—	(3.2)	ヘラミガキ	櫛描波状文、口唇部縄文	
H5 11	弥生土器	甕	—	4.1	(4.4)	ヘラナデ、ヘラミガキ	櫛描波状文、ヘラミガキ	
H5 12	弥生土器	甕	—	—	(7.6)	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描縹状文	
H5 13	弥生土器	甕	(15.2)	—	(9.8)	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描縹状文	
H5 14	弥生土器	甕	20.2	—	(13.9)	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描縹状文	No. 6
H5 15	弥生土器	甕	—	6.8	(14.7)	ヘラミガキ	櫛描斜走文、ヘラミガキ	No. 8
H5 16	弥生土器	甕	(18.4)	(6.0)	9.8	ヘラミガキ、単孔	ヘラミガキ	No. 9
H5 17	弥生土器	蓋	—	—	(5.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、穿孔4	No. 2
H5 18	須恵器	坏	13.1	6.4	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	混入
H5 19	須恵器	碗	—	5.7	(1.5)	ロクロナデ、扇軸	ロクロナデ、扇軸	混入
H5 20	土師器	甕	(19.0)	—	(7.6)	ヘラナデ	ナデ、ヘラケズリ	混入
H5 21	縄文土器	浅鉢	—	—	(3.8)	ミガキ	ミガキ、横位沈線文	混入
H5 22	土製品	土器片 円板	3.6	3.8	0.6	外面ヘラミガキ		
H5 23	土製品	土器片 円板	4.9	4.3	0.9	外面赤彩		
H5 24	土製品	土器片 円板	6.0	5.2	0.8	外面赤彩		
H5 25	石器	二次加工 剥片	2.2	1.2	0.6	重量1.2g 黒曜石 自然面残す剥片縁辺に二次加工		No. 6
H5 26	石器	磨石	8.3	6.2	3.7	重量275.0g 磨面1、両端・中央に敲打痕		No. 5
H5 27	石器	敲石	8.5	4.0	1.3	重量71.2g 両端・両側面に敲打痕		
H5 28	石器	磨石	4.4	4.5	0.8	重量27.3g 磨面1、上部に浅い敲打痕		
H5 29	飲食器	罐か	(4.8)	(0.5)	(0.3)	重量1.9g 細い角柱状製品の両端欠損		No. 1
H5 30	鉄製品	不明	(3.2)	(1.4)	(0.9)	重量3.2g 両端欠損の板状製品 両方突起は錆蝕れか		
H6 1	土師器	坏	(12.8)	—	(3.1)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	
H6 2	土師器	坏	(16.2)	—	(5.7)	ヘラミガキ	ロクロナデ	検出
H6 3	土師器	坏	—	—	(3.6)	ヘラミガキ、暗文	ヘラミガキ	検出
H6 4	土師器	坏	—	(8.0)	(3.1)	ヘラミガキ	ロクロナデ	検出
H6 5	須恵器	坏	(14.8)	—	(3.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	掘方
H6 6	土師器	甕	(13.2)	—	(3.6)	ナデ	ヘラケズリ	掘方
H6 7	土師器	甕	(14.0)	—	(5.9)	ナデ	ヘラケズリ	検出
H6 8	須恵器	甕	—	—	(6.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、両形突起貼付	
H6 9	石器	砥石	4.4	3.6	2.5	重量67.6g 全面使用 正面から上面に斜めに穿孔		検出
H8 1	土師器	坏	(12.8)	(13.0)	(2.3)	ヘラミガキ	ナデ、ヘラケズリ	
H8 2	土師器	坏	14.1	9.3	4.5	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転ヘラ切 墨書	
H8 3	土師器	坏	—	(10.8)	(3.1)	ヘラミガキ、暗文	ヘラケズリ、ヘラミガキ	P3
H8 4	土師器	高坏	—	—	(5.7)	ヘラナデ、黒色処理	ヘラケズリ	
H8 5	須恵器	坏	(13.6)	—	(4.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H8 6	須恵器	坏	(14.0)	(8.2)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ、火燻痕	
H8 7	須恵器	坏	(14.0)	—	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ、火燻痕	カマド
H8 8	須恵器	坏	(15.4)	—	(5.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H8 9	須恵器	有台坏	(14.8)	(11.2)	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	
H8 10	須恵器	有台坏	14.8	11.4	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	
H8 11	須恵器	有台坏	—	(11.0)	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	P3
H8 12	須恵器	有台坏	—	(10.8)	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	
H8 13	須恵器	蓋	15.4	—	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	
H8 14	須恵器	蓋	(15.4)	—	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H8 15	須恵器	蓋	(15.0)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H8 16	須恵器	蓋	(16.4)	—	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	カマド
H8 17	土師器	甕	(15.2)	—	(3.5)	ヘラナデ	ナデ、ヘラケズリ	P3
H8 18	土師器	甕	(18.4)	—	(4.5)	ヘラナデ	ナデ、ヘラケズリ	
H8 19	土師器	甕	(22.6)	—	(6.7)	ヘラナデ	ナデ、ヘラケズリ	カマド
H8 20	土師器	甕	21.8	—	(23.9)	ヘラナデ	ナデ、ヘラケズリ	カマド
H8 21	須恵器	甕	(33.6)	—	(11.9)	ロクロナデ	ロクロナデ、タタキ	カマド
H8 22	須恵器	甕	32.1	—	(24.4)	ヘラナデ	ロクロナデ、タタキ	カマド

第5表 遺物観察表3

遺構	番号	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置 備考
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
B8	23	須恵器	甕	—	(18.8)	(4.7)	ヘラナデ	タタキ、ヘラケズリか	
B8	24	須恵器	甕	—	(17.2)	(6.1)	ヘラナデ	ロクロナデ、タタキ	カマド
B8	25	須恵器	甕	—	—	(5.6)	当具痕	タタキ	
B8	26	須恵器	甕	—	—	(7.2)	当具痕	タタキ	
B8	27	石器	磨石	(4.3)	(5.4)	(2.2)	重量57.5g 磨面2 下部欠損		
B8	28	石器	磨石	(9.8)	(4.1)	(3.0)	重量57.5g 磨面2 側面欠損		
B8	29	石器	凹石	7.7	7.5	4.6	重量107.9g 中央に径5.4cm、深さ2.7cmの凹み		検出
B9	1	土師器	坏	14.3	7.5	3.2	ヘラミガキ、暗文、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切後ヘラケズリ、「七」墨書	
B9	2	土師器	坏	(12.0)	(12.4)	(2.9)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	堀方
B9	3	土師器	鉢	—	(7.8)	(2.1)	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、ヘラケズリ	
B9	4	須恵器	坏	(13.6)	(7.8)	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ、火障痕 底部回転ヘラ切	
B9	5	須恵器	坏	—	(7.0)	(0.7)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	P1
B9	6	須恵器	有台坏	—	9.6	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転ヘラ切	
B9	7	土師器	甕	—	—	(4.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ	
B9	8	須恵器	甕	—	—	(10.3)	ナデ、当具痕	タタキ	
B9	9	石器	磨石か	(5.1)	(7.7)	(3.1)	重量48.8g 半分欠損 全体に磨痕、成形痕か		
B9	10	石器	磨石	8.9	7.4	5.0	重量429.5g 磨面2 縁辺に敲打痕		
B9	11	鉄製品	鏡?	(8.8)	(0.7)	(0.5)	重量6.8g 折損するが同一個体と考えられる		
B10	1	土師器	坏	10.6	—	(3.6)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	
B10	2	土師器	壺	(20.6)	—	(18.4)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	
B10	3	土師器	壺	16.1	—	(21.7)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	P1
B11	1	土師器	坏	(13.2)	(10.6)	4.1	ヘラミガキ、黒色処理	底部ヘラケズリ、ヘラミガキ	
B11	2	土師器	坏	12.5	10.4	4.0	ヘラミガキ、黒色処理	底部ヘラケズリ、ヘラミガキ	
B11	3	土師器	坏	13.5	12.3	3.7	ナデ	底部ヘラケズリ、ナデ	H11-P1
B11	4	土師器	坏	(12.2)	—	4.0	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	
B11	5	土師器	坏	(12.6)	(5.0)	4.2	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
B11	6	土師器	坏	(14.4)	(7.6)	3.7	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
B11	7	土師器	鉢	(16.4)	(16.2)	8.1	ヘラナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラケズリか	
B11	8	須恵器	蓋	(11.2)	—	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	
B11	9	須恵器	坏	(10.6)	(13.0)	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転ヘラ切	
B11	10	須恵器	甕	—	—	(5.4)	当具痕	タタキ	
B11	11	石器	有舌尖頭器	6.5	1.8	0.7	重量6.1g 変形 建質頁岩		
B11	12	石器	磨石	(6.4)	(7.7)	(4.1)	重量299.0g 磨面1、端に敲打痕、上部欠損		No.3
B11	13	石器	敲石	(8.7)	(7.9)	(2.8)	重量262.5g 縁辺に敲打痕、片側欠損		No.4
B11	14	石器	磨石	11.4	6.8	3.9	重量439.0g 磨面1、下端に敲打痕		No.1
B1	1	須恵器	坏	(13.0)	(4.6)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	
B1	1	縄文土器	深鉢	—	—	(2.8)	—	口縁部に横位沈線	堀之内1式か
B1	2	弥生土器	壺	—	—	(5.1)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	
B1	3	弥生土器	高坏	—	—	(6.0)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	
B1	4	土師器	坏	—	—	(2.6)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	
B1	5	土師器	坏	—	—	(3.6)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	
B1	6	須恵器	坏	(14.0)	—	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	
B1	7	須恵器	蓋	—	—	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	
B1	8	須恵器	壺	—	—	(4.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、縹緞状文	
B1	9	灰釉陶器	壺	—	—	(5.4)	ロクロナデ、施軸	ロクロナデ	
P21	P21-1	土師器	坏	—	—	(3.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	P21
P21	P21-2	須恵器	甕	—	—	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、突起か	P21
P23	P23-1	土師器	甕	—	—	(3.1)	ナデ	ナデ	P23
P23	P23-2	須恵器	甕	—	—	(3.5)	ロクロナデ、当具痕	タタキ	P23
P27	P27-1	弥生土器	甕	—	—	(3.5)	ヘラミガキ	縹緞斜走文、縹緞葉状文	P27
P28	P28-1	土師器	坏	—	—	(2.2)	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	P28
P28	P28-2	須恵器	蓋	—	—	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	P28
P28	P28-3	土師器	甕	—	—	(2.1)	ナデ	ナデ	P28
P28	P28-4	土師器	壺	—	(5.8)	(4.6)	ヘラナデ	ヘラミガキ	P28
P28	P28-5	須恵器	甕	—	—	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	P28
P29	P29-1	須恵器	蓋	—	—	(1.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	P29
P29	P29-2	須恵器	壺	—	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	P29
P32	P32-1	須恵器	甕か	—	—	(4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	P32

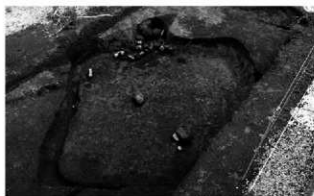
第6表 遺物観察表4



1区東側完掘状況（北から）



1区南側完掘状況（西から）



H1号住居址完掘状況（南から）



H1号住居址掘方完掘状況（南から）



H2号住居址完掘状況（南から）



H2号住居址掘方完掘状況（南から）



H3号住居址完掘状況（東から）



H3号住居址掘方完掘状況（東から）



H4号住居址完掘状況（南から）



H4号住居址掘方完掘状況（南から）



H5号住居址完掘状況（南から）



H5号住居址掘方完掘状況（南から）



H6号住居址完掘状況（西から）



H6号住居址掘方完掘状況（西から）



H8 号住居址完掘状況（南から）



H8 号住居址カマド完掘状況（北から）



H9 号住居址完掘状況（南から）



H9 号住居址掘方完掘状況（南から）



H10 号住居址完掘状況（南から）



H10 号住居址掘方完掘状況（南から）



H11 号住居址完掘状況（南から）



H11 号住居址掘方完掘状況（南から）



1区中央ピット群完掘状況(東から)



M1号溝址完掘状況(南から)



2区完掘状況(北西から)



3区完掘状況(南東から)



4区完掘状況(北から)





5区完掘状況(南から)



6区完掘状況(北から)



M2～4号溝址完掘状況(西から)



M5号溝址完掘状況(西から)

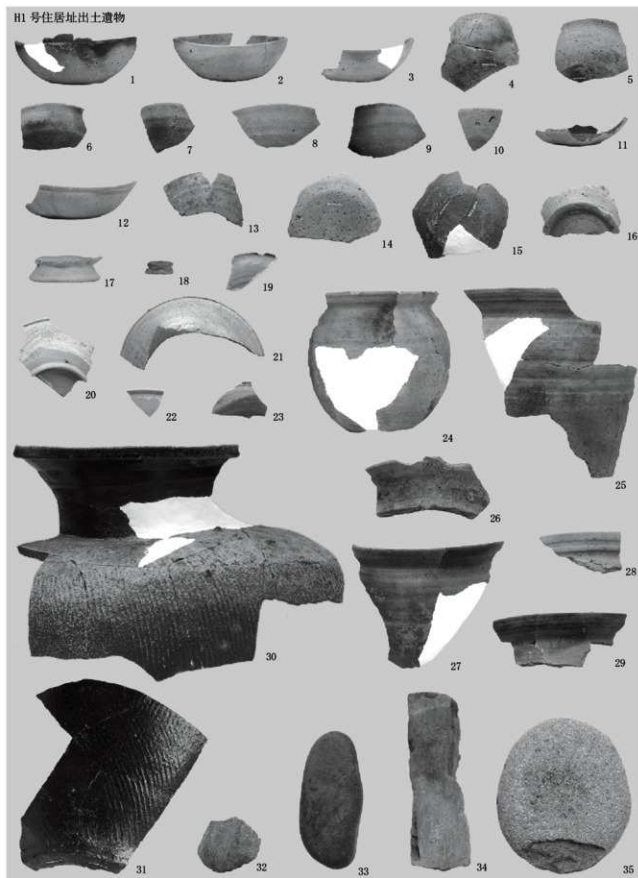


P56完掘状況(北から)

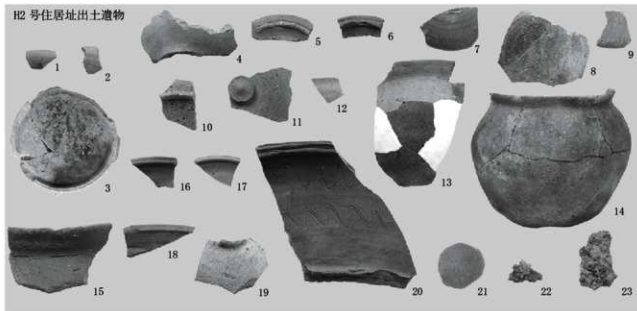


P57完掘状況(北東から)

H1 号住居址出土遺物



H2 号住居址出土遺物



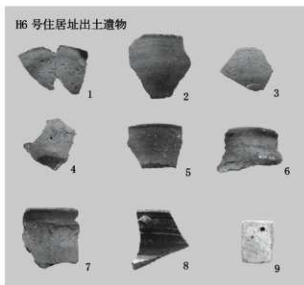
H4 号住居址出土遺物



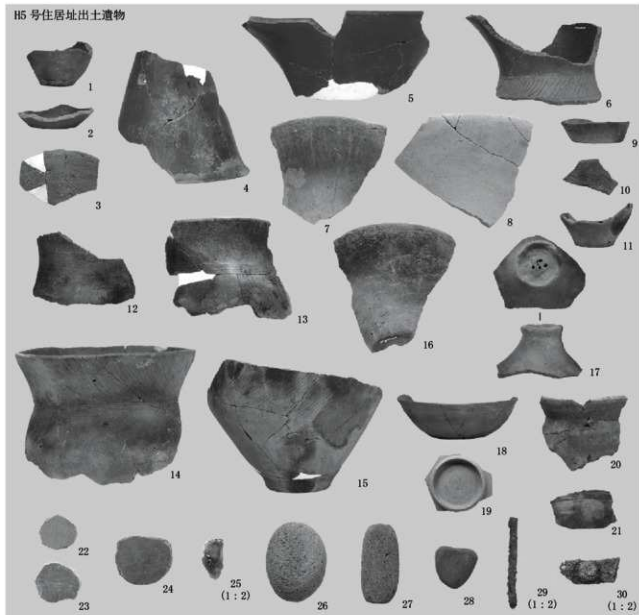
H3 号住居址出土遺物



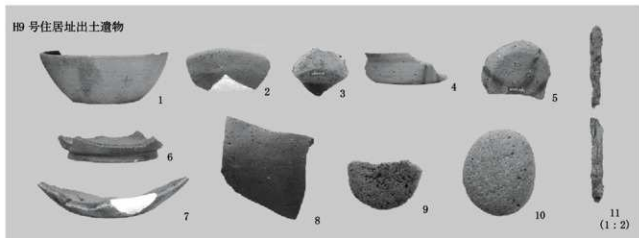
H6 号住居址出土遺物



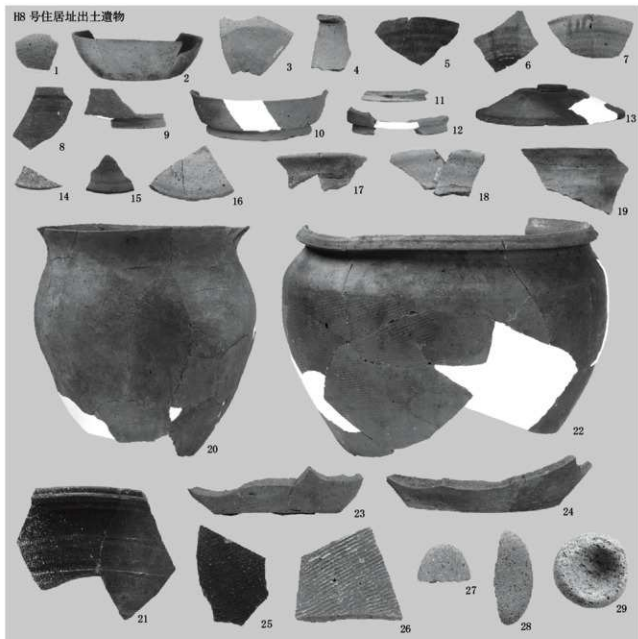
H5 号住居址出土遺物



H9 号住居址出土遺物



H8 号住居址出土遺物



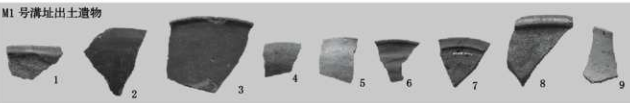
H10 号住居址出土遺物



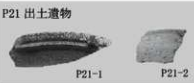
H11 号住居址出土遺物



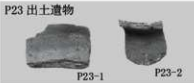
M1 号溝址出土遺物



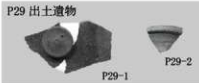
P21 出土遺物



P23 出土遺物



P29 出土遺物



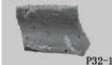
P28 出土遺物



P27 出土遺物



P32 出土遺物



報告書抄録

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきじゅうよん							
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡XIV							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第284集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発行年月日	令和3年(2021) 9月							
ふりがな	ふりがな	コ	ー	ド				
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査積 (㎡)	調査原因
にしちかついせきぐん にしちかついせきじゅうよん 西近津遺跡群 西近津遺跡XIV	さくしながとろ 佐久市長土呂 1769-2他	20217	29	36° 17' 02"	138° 27' 28"	20200617 ～ 20201102	206	宅地 造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西近津遺跡群 西近津遺跡XIV	集落址	弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居 址 11軒 土坑 3基 溝 址 5条 ピット 60基	縄文土器、弥生土器、土師器、 須恵器、灰輪陶器、石器、石 製品、土製品、鉄製品				
要約	浅間山南麓の田切り台地末端部に展開する弥生時代後期から平安時代の集落跡の一部を調査した。弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代の住居址が検出されたほか、縄文時代草創期の所産と考えられる有舌尖頭器が出土した。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第284集

西近津遺跡群 西近津遺跡XIV

令和3年(2021) 9月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局  
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056  
社会教育部 文化振興課文化財事務所  
〒385-0051 長野県佐久市中込 2913  
Tel:0267-63-5321

印刷所 キクハラインク株式会社

